

# 伸東測量設計株式会社

## 取締役会長 中江章喜氏



プロフィール

1962年三島市生まれ。三島市立北小学校卒業後、静岡聖光学院（中・高一貫教育）へ入学し親元を離れ寮生活をおくる。東海大学海洋学部海洋土木工学科卒業後、国際航業株式会社（建設コンサルタント）を経て平成元年伸東測量設計株式会社に入社。以降三島市に在住。平成10年7月から平成22年6月まで代表取締役、その後現職。

### 子どもの興味の扉をひらく それが三島の未来をつくる

三島から始まり現在は沼津に本社を置く伸東測量設計株式会社。地域の文化活動にも取り組み地域活性の一端を担ってきた取締役会長 中江章喜氏に、ご自身が幼少期を過ごされたという三嶋大社のすぐ裏手にある伸東測量設計三島営業所でお話を伺った。

—— 業務内容を教えてください。

もともと公務員だった父が独立して、昭和35年に測量会社を始めたのが伸東測量設計の始まりです。市民が、安全・安心かつ快適に生活できるように、土木関係の測量や、道路、橋、構造物、河川などの調査、設計といった、まちの基盤づくりを担っている会社です。

—— 企業として取組んでいる文化活動はありますか？

伊豆市の恋人岬の近くに日本で唯一白ビワを育てている所があります。糖度14%もあるおいしい果物にも関わらず非常に痛みやすく流通させるのが困難なため、生産が衰退してしまつたんです。行政も生産を継続するために努力したのですが、財政も厳しい中で支援の継続が難しくなつてしまつたんです。そこで、伸東測量設計が社会貢献活動としてお手伝いする

ことになりました。活動を始めて、今年で7年目になります。ビワ狩りツアーなどもやっているんですよ。

### よそのものが必要

まちを継承していく時には、地域の中に潜在的にある良いものを、地元の人達がじっくり見つめ直す機会をもつことが必要です。そのためにも、よそのものが行つて、「すごいじゃないですか」と言うことが必要です。それはその地域にとってすごく力になることだと思ふんです。

### ものを測ることを文化に活かす

先日「3次元計測技術」を使い、伝統ある三四呂人形のお土産づくりをお手伝いしました。左右のレンズで立体視をして地図を作成する測量技術が人形の色彩などのリアルな再現に活用できることがわかり、人形のストラップなどを製作する基本データを提供させて頂きました。計測した3次元データは、写真の中にあたかも立体物があるかのように浮かび上がらせることも出来ます。様々な分野に応用し、活かしていける技術です。

### 広域的視点で

### いろんな連携を広げる

地方都市の問題とも言えますが、三島、三島と言いつつ過ぎていくように感じます。私達は生活する時に行政区域を意識している訳ではありません。県東部地域のなかで、三島の担うべき役割を捉えて、周辺市町との機能分担をしていくことが必要だと感じます。

広域的視点をとりたい、行政境界に縛られず連携して、色々ことができたら素晴らしいですね。

—— 今後されて行きたい活動、興味をお持ちのことはありますか？

素敵な人に出会った時、この人が活躍できる舞台をどうしたら作れるだろう、というような「空間演出」に興味があります。

### 生み出した文化芸術を次へとつなぐ

そうした中でも、私は特に文化や芸術の活動をしている人達が好きです。自分の思いを文字や形、音楽で表現できる、ゼロから生み出す手段を持っていることがすごいと思っています。そういう魅力のある人達が地域のなかで活動していけるようなフィールドや環境をつくり、次へとつなげていきたいですね。

### アテナイウムで子ども達の

### 「興味の扉」を開きたい

ギリシャ時代、大学などが出来る前は、例えば天文学者の部屋には天文学に関する本ばかり沢山置いてある部屋があり、それを学びたい人達が集まっていた。そんな環境が子ども向けにつくれたらいいなと思います。かなり狭い範囲の専門的な分野で、子どもには良く分からない本の山かもしれないが、インターネットで調べる（デジタル）とかではなく、実際の本を手にとつて、こんな本があるんだ、と。例えば自分が物語を書きたいとかロボットを作りたいとか、関心を持ったことを深く知るチャンスを広げたい。

退官される大学教授の蔵書を二か所に集めて、そのサテライトを県東部のどこかにつくれたら面白いですね。

—— どんな文化活動がこれから必要になるとお考えですか？

### 子ども達が社会を学ぶ機会が大切

地域の未来を担う子ども達に必要な事業をやつていかなければいけないと思います。「街中だがしや楽校」というものが三嶋大社境内や多岐参道で行われています。子どもが大人のお手伝いをしてお駄賃（地域通貨的なもの）をうけとり、それを使って買物が出る仕組みのイベントで、会社としても多くの仲間とともにスタート時から応援をしています。全国各地で実施されているのが三嶋大社なんですよ。参加している子どもたちは、すごく生き生きとやっています。

方都市としては誇れるくらい目に緑が入ってきます。「水と緑と文化」という言葉通り、町の中に、本当の意味での水と緑と文化があります。だからこそ、東京からも人が来てくれるのだと思いますね。

### まちを大切に作る熱い人とそれを認め支える人の活動

中学から寮生活で三島を離れ、戻つて来たのが28年前。ちようどランドワークさんが源兵衛川をどうにかしようとしていた時期でした。三島が「個性を生かす」ことが上手にできる大切な第一歩だったと思います。昔からの宿場町で、多様な文化が交流していた町だからこそのできごとかもしれない。つまり、三島には、まち（地域）のことをちゃんと考えている、思いが熱い人が多いことと、それを認め、支える多くの人がいると感じますね。

三島市は、子ども向けのワークショップなどに力をいれていますよね。ああいう所に目を向けているのは大切なことですね。

—— 三島（三嶋）の印象をお持ちですか？

東京など都心は緑の占める割合（緑被率）は少ないけど、街路樹など見た目の緑（緑視率）があります。逆に地方は、緑被率は高いですが、町の中に緑が少ない。三島はと言うと、箱根を抱えていることもあり、緑被率は勿論のこと、地



だがしや楽校を楽しむ子ども達

「三島企業の考える三島カルチャー」は、「三島の文化応援プロジェクト」が、三島周辺に拠点を置く企業の方々から、三島の文化についてインタビューするシリーズ企画です。配布場所／生涯学習センター、三島市民文化会館、市内文化施設等、詳しくは下記のWebサイトをご覧ください。



伸東測量設計株式会社

静岡県沼津市大岡2696

<http://www.shintosh-sd.co.jp/>